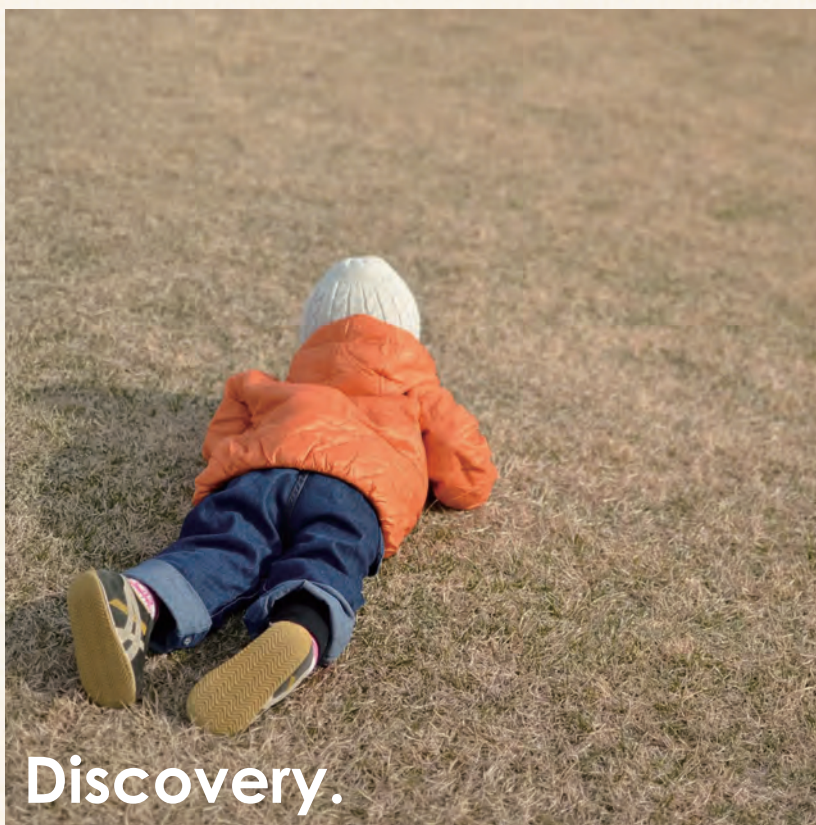


みいつけた!

福岡県保育協会通信



Discovery.

By mutual confidence and mutual aid,
Great deeds are done, and great discoveries made;
相互信頼と相互扶助にて、偉大なる行為はなされ、偉大なる発見がなさる。
—ギリシアの詩人 ホメロス

第70回筑後地方保育事業研究大会報告	2
第69回福岡地方保育事業研究大会報告	3
第59回京築ブロック保育研究大会報告	4
乳児期とメディア	5
みなさまこんにちは、『ほいく福岡』です。	6
第55回全国保育士会研究大会（奈良大会）報告	7
第7回九州保育三団体青年部協議会研修会 in 北九州報告	8
公立発信	9
新園紹介	10
コラム・編集後記	11

公益社団法人

福岡県
保育協会

<https://www.fphk.jp/>

福岡県保育協会 で 検索



第70回筑後地方保育事業研究大会報告

白梅保育園 園長 徳永 幸子

『子どもに寄り添う保育をめざして』
～一人ひとりがみんなたいせつ～

コロナとの共生も3年目が過ぎ、マスク越しの保育の課題も浮かび上がっています。また、昨年2月に始まったロシアのウクライナ侵攻により幼い子どもたちを含む多くの尊い命が奪われ、言葉に言い表せない痛ましい出来事が続いています。1日も早く日常に戻ってくることを願うばかりです。

さて、「子どもに寄り添う保育をめざして」～一人ひとりがみんなたいせつ～のテーマのもと、令和4年8月26日(金)に、「第70回筑後地方保育事業研究大会」を西鉄グランドホテルより ZOOM ウェビナーで開催いたしました。集合型での実施が可能になる事を期待していたのですが、コロナ収束の目途も立たない中での大会となりました。

本年度も、長年保育事業に従事し、子どもたちのためにご尽力いただきました49名のお名前を紹介させていただき一般表彰を行いました。今後、益々のご活躍を期待しているところです。

記念講演では、児童文学作家 くすのきしげのり先生に、「一人ひとりがみんなたいせつ」～子どもの心に気づくとき～と題してご講演いただきました。先生の作品に込められたメッセージを穏やかな語り口で丁寧に伝えていただきました。つい見逃してしまいそうな子どもたちのその時々で揺れ動く心にも気づかせてくださいました。挿絵の中にもたくさんの思いがある事を知り、改めて絵本の奥深さを実感したところです。

今回の研修会で、私たちの心の中にあるバリアを取り除くことが、子どもたち一人ひとりの思いや願いを大切にしたい保育につながることを確認できました。早くマスクのない日常に戻ってくることを祈念して報告とさせていただきます。

大会の詳細は、以下の通りです。

【主題】

『子どもに寄り添う保育をめざして』
～一人ひとりがみんなたいせつ～

【大会趣旨】

保育所保育指針が改定されて5年目となります。新しい指針の趣旨を踏まえた保育に取り組み始めた矢先に新型コロナウイルスとの共生が始まりました。新型コロナウイルス感染症の収束の見通しが立たない中、保育現場では、保育者の持つ専門性や創意工夫等により、新たな保育実践に取り組んできました。この間、これまでの取り組みを振り返ることで、より質の高い保育

の提供につながる機会にもなりました。

このような中で、私たちは、一人ひとりの子どもの状況や家庭での生活実態を把握しつつ、子どもたちの思いや願いを受け止めながら寄り添うことを再確認することを目的として本研究大会を開催いたします。

【プログラム】

令和4年8月26日(金曜日)13時30分～

【開会行事】

開会の言葉

大会会長挨拶(筑後地方保育協会 会長 猿渡 保生)

主催者挨拶(公益社団法人福岡県保育協会 会長 万田 康)

来賓挨拶 福岡県知事 服部誠太郎 様

表彰者紹介

○記念講演 児童文学作家 くすのきしげのり 氏

一人ひとりがみんなたいせつ～子どもの心に気づくとき～

○閉会行事

次期開催地挨拶 久留米市保育所連盟会長 菊池 圭

○閉会の言葉



児童文学作家 くすのきしげのり 先生(記念講演)

【講演後の感想】

- ・子どもたちは、何でも意味があって行動しているんだと思いました。すぐに怒らず見守ることの大切さを改めて感じました。
- ・「いいな じぶん」を読んで、「保育園の子ども 自分の子も みんな いいな じぶん」と思いながら大きくなってほしいなと思いました。
- ・絵本には、一つ一つ深い意味があると思っています。今回も涙が出ました。「大人が環境」子どもたちを取り巻く環境を大切にしたいです。バリアフリーの保育をめざします。
- ・たこ焼きを買いに行った絵本を夫婦で泣きながら読みました。

第69回福岡地方保育事業研究大会報告

ひかり幼稚園 園長 堤 智行

『子ども達の笑顔と共に、
明るい未来へ』

令和4年度「第69回 福岡地方保育事業研究大会」を8月27日(土)にオンラインで開催しました。新型コロナウイルス感染症の感染拡大が心配される中、様々対策を検討しましたが、従来の集合型での開催は困難と判断し、専門業者(株式会社 QTmedia)に委託した完全オンライン型となりました。配信会場(ソラリア西鉄ホテル福岡)には、福岡県保育協会会長ならびに記念講演講師、宗像・福津地区保育協会から数名の大会運営担当者、専門業者のみとし、事前録画となりました県知事挨拶を含め、その他は全てオンライン参加となりました。お忙しい中ご挨拶頂きました福岡県知事様(代理福岡県福祉労働部長西原様)、県保協会会長万田康様には、厚く御礼申し上げます。

大会テーマは『子ども達の笑顔と共に、明るい未来へ』としました。世界的また長期間にわたる新型コロナウイルス感染症の影響で、保育園だけでなく様々な現場で従来大事にしてきた関係性、その関係性を生み出し育む場が無くなってしまいました。やむを得ないにしても今後コロナ禍の環境が、子どもたちにどのような影響を及ぼしていくのか、全く予測が付きません。また子どもだけでなく保護者、職員、私たち大人にとっても、共感・協同を通して、共に子育てを悩み考え学び喜びあえるような場が少なくなってしまったことに、ストレスや不安を感じているのではないのでしょうか。こうした課題を背景として今大会のテーマを設定しました。

記念講演では、立花高等学校校長である齋藤真人先生に、「『いいんだよ』は魔法のことば ～寛容の精神が成就される社会へ～」との講題でお話を頂きました。大会趣旨を踏まえ、「共感的理解」ということについて、大変分かりやすく面白おかしく、時には思わずハツとするような問題提起も交えられながら、熱く語っていただきました。齋藤先生が実際に出会った高校生徒とのやりとりやその姿などの豊富なエピソードを通して、私たち大人社会が無意識に「あたりまえ」としている世界が、子どもたちにとって大きな障害になっているのではないかと、生きづらくしているのではないかと、本当に「あたりまえ」なのか、と聞く者が問われ「大人への警鐘」として厳しく響いてくる内容でした。涙が止まらなくなるような感動に最後まで包まれながら共に学ぶことが出来たように思います。齋藤先生には心より感謝申し上げます。



大会終了後、記念講演を含め大会全体の録画を一定期間youtubeで配信しました。参加された園からは、「齋藤先生を自園研修にお招きしたい」「後日あらためて今回の録画を全職員で見ました」等の感想なども頂きました。

最後に、大会開催にあたりご協力ご尽力頂きました県保協の皆様、またオンライン業務を担当頂きました株式会社 QTmediaの皆様、会場をご準備頂きましたソラリア西鉄ホテル福岡の皆様、その他関係各位の皆様、そして、当日または後日配信でご参加の先生方に、心より御礼申し上げます。

<大会テーマ>

『子ども達の笑顔と共に、明るい未来へ』

<大会趣旨>

新型コロナウイルス感染症が続く中、保育園は、エッセンシャルワーカーとして社会的機能を支える役割が更に高くなっています。また、子どもたちにとって、周りの大人に認められず自尊心を損なってしまうような環境も少なくありません。そのような中、子どもたちと共に様々な体験やお互いに認め合うことを通して、人生の土台となる心の根っこを大きく育てていくことが求められています。

そのためにも私たちは、職員同士が協力し合い、保護者と手をつなぎ、子どもの成長と共に喜び、共に笑い、共に安心感が生まれるような、確かな信頼関係を築いていかなければなりません。子どもたち一人ひとりを地域全体で温かく包みながら、子どもたちの笑顔と共に、明るい未来を築いていけることを願い、本大会を開催いたします。

- ◇日時 令和4年8月27日(土) 10時00分開会(ZOOMウェビナー開催)
- ◇配信場所 ソラリア西鉄ホテル「聖天」
- ◇日程
- 10時00分 開会
- 挨拶 大会会長 宗像・福津地区保育協会会長
- 主催者 福岡県保育協会会長
- 来賓(録画) 福岡県知事(代理 福岡県福祉労働部長)
- 10時15分 記念講演
- 12時00分 閉会

◇記念講演 「いいんだよ」は魔法のことば
～寛容の精神が成就される社会へ～

【講師】学校法人立花学園 立花高等学校
校長 齋藤 真人先生

【内容】不登校自立支援に取り組む立花高校の理念は、すべて生徒達から教えてもらった大切な「大人への警鐘」なのかもしれません。こども達が安心して個性を発揮できるよう、大人達が「おほらか」であること、そのために必要な「共感的理解」について共に考えましょう。

保育の現場で大切なこと ～聴く力～

小春日和の続く令和4年11月12日(土)、第59回京築ブロック保育研究大会が開催されました。開催にあたって、年度当初より会場に集まるのか、オンラインなのか、またはハイブリット形式をとるのかと理事会、実行委員会で何度か協議を重ねました。皆で集まってという強い気持ちはあったものの、開催時のコロナの感染状況が予測不可能なところもあり、また事前に行われた福岡県内の各保育事業の開催状況を鑑みて、今回は大会予定会場であった吉富フォー・ユース会館をキャンセルしてオンラインでの開催に決定致しました。その節には7月の筑豊地区の保育研究大会のオンライン開催の様子を見学させていただき有難うございました。

研修会は京築保育事務所より配信することとして、京築の理事や実行委員、若い園長先生に手伝いをいただきながら自分達で準備をしました。機材は何か要るのか、きちんと配信できるのか等、試行錯誤を繰り返しました。10日前のリハーサルでは、なかなか配信が上手くいかず不安しかありませんでしたが、前日は何とか準備が整い当日を迎えました。

大会は「保育者に必要な力は何か？」をテーマとし、310名を超える保育士が視聴しました。当日13時半より開会式が行われ、先ず福岡県保育協会会長の万田康様より、続いて担当地区の大会名誉会長の吉富町町長の花畑明様にご挨拶をいただきました。その後、来賓である福岡県知事代理の福岡県福祉労働部長の西原康史様、衆議院議員の武田良太様より祝辞を、また参議院議員の松山政司様、みやこ町町長内田直志様より祝電をいただきました。そして一般表彰者と特別表彰者が紹介され開会式は終了しました。

14時からの記念講演は、大分傾聴塾指導者、大分大学准教授の斎藤友子先生をお招きして「傾聴とは何か？」～子どもの自立性を育むために～を演題としてお話をいただきました。

研修の内容は

前半

- ・保育者として身につけたい「聴く力」の知識について(理論と方法論)
- ・聴くこと 子どもと子どもの自立性の関係について

後半

- ・保護者への対応 保護者への援助
 - ・保育者のメンタルヘルス
 - ～保育者の元気が子どもの「育ち」に関係する～
- でした。

講演を終えて感じたことは、保育の現場における聴く力の重要性です。聴く事はそれだけで「援助(相手の苦しみと和らぐこと、軽くなる事、なくなる事)」になるという言葉が印象的でした。

ただ漠然ときくのではなく、相手の気懸りに意識を向けて「聴く」。そうすることで相手は「安心」して話す事ができるようになる。また、うまく聴いてもらうと、相手は落ち着き、考えが整い、生きる力が湧く、このことが聴くことの意味である。

「聴く」によって承認欲求が満たされ、愛着関係が成立すると、自律(自分で判断すること)が促されて、自立(依存の状態でないこと)が促されるというここの育ちを学びました。

なぜ「聴く」のか、何を聴くのか、どのように聴くのかという傾聴する時に心がけたい具体的なポイントを意識しながら、グループワークで傾聴の練習をしました。

また保育者の精神衛生が子どもの育ちに最も重要なので、仕事環境における仕事量や人間関係の調整が必要なことでも分かりました。

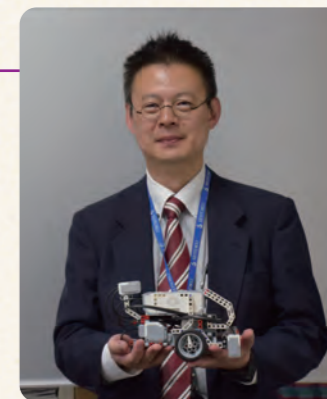
2年続けてのオンライン開催になりましたが、来年こそはコロナ禍が収まり、大会で直接皆さまとお会いできますことを願っております。

最後になりましたが、ご協力いただきました福岡県保育協会の各園の先生方、並びに事務局の皆さま、またご視聴下さった多くの保育士の皆さまに感謝を申し上げて大会の報告とさせていただきます。



乳児期とメディア ～保育士養成施設の授業紹介～

聖徳大学教育学部教育科 兼 情報教育センター 准教授 岡本 尚志



○はじめに

本学教育学部では、幼稚園教諭・小学校教諭・保育士を取得することができ、その中の児童学科には、保育士資格取得を必修とする保育士養成コースがあります。3年前のカリキュラム変更によりこのコースの4年生の必修科目として、卒業研究ゼミ以外にも学生が興味・関心をもった内容をさらに深めて学び、より高い専門性をもてるようにした7つの領域専修が創設されました。この専修の中の乳児領域専修に「乳児期とメディア」という科目があり、私の他に絵本や発達心理学が専門の齋藤有先生とオムニバス形式でおこなっております。この授業では、翌年に保育士として就業する学生がすぐに活かせるように、保育現場で必要と思われるメディアに関する問題や課題について各個人で考えたことをグループ毎にまとめてもらって発表する形式をとっています。以下に私が担当している授業で今年度扱った内容の一部を紹介いたします。

○メディアについて

現在においてメディアは、スマートフォンやデジタルファイルなどが思いつきやすいのですが、昔から存在する絵本や書籍などの本についてもメディアになります。まず、メディアの種類や特徴を調べ、それぞれどのような用途に用いられているか、メリットとデメリットについて最初に再確認をしました。また、それぞれのメディアを利用する時の注意点についても整理しました。

特に学生からの意見が多かったのは、インターネット上からの情報を得るときに複数のサイトを閲覧して信憑性を確認することや、著作権に注意し安易に文章やイラストなどを利用しない、などの意見が出ました。

○保育者自身がWebサイトの情報を入手した場合について

「Webサイトから得られた保育に関する情報を保護者に伝える際、気をつけなければならない点は何か、法人サイト、インスタグラムなどの個人サイト、『知恵袋』などの共有サイトなど、それぞれのメディアの特徴についても触れ、保育者にとってWebサイトからの情報はどのように活用されるべきか。」というテーマについて考えてもらいました。

学生からは、得られた情報は参考程度に留める、グラフなどは縦軸変更による印象操作に注意する、などの意見が出ました。

○保護者自身のスマートフォンの利用について

「0～6歳(未就学児)の乳幼児をもつ20歳～49歳でスマートフォンを所有している女性を対象に調査を行った所、乳幼児がスマートフォンに接触し始めた年齢について、『「0～2歳」が全体の47.0%である』という調査結果がある(※)。この結果より、今後子どもの保育や教育にどのようなデメリットがあるか。また保育者は、保護者に対して子どもへのスマートフォンの利用についてどのように指導、説明する必要があるか。』について考えてもらいました。

学生からは、実際に街中で子どもがぐずった際、即座にスマートフォンを取り出してあやしている場面をよく見かけることがあるとしつつ、混雑した車中での対処はとても同情できるがぐずる対処＝スマホではなく、幾つかの手遊びやハンカチ・タオル遊びなどの方法を保育者や園が教える機会を作ってもよいのではないか、などの意見が出ました。

○保護者から入手した情報の取り扱い方について

「あなたは保育者です。ある日保護者から、『日本国内での割り箸の年間消費量は一人当たりの年間消費量は約200膳となり、これが森林を減らし環境破壊につながる恐れがある。』という記事を見つけたので、園としても早速園だよりなどに掲載して取り組むべきだ、という意見があった。あなたはどのように考え、行動しますか。」というテーマで考えてもらいました。

これは昔からある「割り箸論争」と呼ばれるもので、学生達は幸いにも(?)この内容を知っている学生はいませんでした。学生達は、割り箸を使うことと使わないことのどちらが正しいかではなく、その人の立場やその時の状況により意見が変わる場合があること、情報には発信者の意図が含まれる場合がある、という点に気づくことができました。

※MMD研究所 調査データ、乳幼児(0～6歳児)のスマートフォン利用の実態、https://mmdlabo.jp/investigation/detail_1544.html, 2016年

まだまだ取り上げるテーマの内容について試行錯誤は続いていますが、常に最新の傾向や動向を見守りつつ、メディアに関しても敏感で高い適応力を持つ保育者育成に努めていきたいと考えております。

福岡県保育士・保育所支援センター 『ほいく福岡』 をご利用ください!

みなさまこんにちは、『ほいく福岡』です。

『ほいく福岡』とは、福岡県保育士・保育所支援センターの愛称で、福岡県が運営している保育人材のための総合支援サイトです。
求人掲載～紹介・成約まで全て無料でご利用いただける就業マッチングサイトですが、次の機能を備えています。

- ① 就業支援 (求人掲載～紹介・成約まで全て無料の就業マッチング)
- ② 相談窓口の運営 (保育人材支援相談員による保育所(園)で働く方、施設管理者の相談対応)
- ③ 保育士資格保有者届出制度の運営 (処遇改善等加算Ⅱの適用要件となるキャリアアップ研修受講歴の管理…保育士各々の登録必須)

現在、保育の仕事に精通した3名の就職支援コーディネーターが就労相談や希望条件に合う保育所等の紹介・あっせんを行っています。平成25年7月に福岡県が「福岡県保育士就職支援センター」を設置し、令和3年8月に、これを「福岡県保育士・保育所支援センター」として新たな事業を開始しましたが、これまでの実績は次のとおりです。

●福岡県保育士就職支援センター実績											●福岡県保育士・保育所支援センター実績			
	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	計	R3.7~	計	R3.8~4.3	R4.4	計
求職登録者数	54	51	29	18	50	109	125	266	702	17	719	163	185	348
就職決定数	43	41	27	17	39	34	77	66	344	15	359	49	82	131

無料の求人掲載はお済みでしょうか? また、先生方の保育士資格保有者届出制度の登録はお済みでしょうか? ご遠慮なくお尋ねください。

また、就職支援コーディネーターは、潜在保育士・子育て支援員の方に「保育士1日体験研修」を通じて現場へのお気持ちを高めていただく取り組みや、市町村の合同就職説明会への参加にも力を入れています。保育人材支援相談員は、日々の相談業務のほか、コラムも定期発行中。心がホッとするコラムは『ほいく福岡』ホームページでご覧いただけます。ご一読いただき少しでも身近に感じていただけたら幸いです。些細なことでも構いませんので、お気軽にご相談ください。みなさまのご利用を心よりお待ちしております。

相談員上田です。日々の保育業務の悩みごとをしっかり寄り添い、お話をお聴きしています。ご相談お待ちしております。

コーディネーター椋本です。就職説明会では求人者・求職者の方と直にお話させていただいております。

コーディネーター山本です。常に明るい声を心掛け、求人掲載や就職相談に取り組んでいます。

コーディネーター内藤です。転職先をお探しの方と季節の話題なども含めお話しするのが好きです!

福岡県保育士・保育所支援センター 092-582-7955
保育人材支援相談員 相談専用ダイヤル 092-710-0521

あなたの保育のおしごと、サポートします。 **利用料無料**

福岡県保育士・保育所支援センター **ほいく福岡**

「やっぱり『ほいく』が好きなあなたのため」
「びったりのしごとを悩みもすっきり」

- 保育士・子育て支援員の就職支援
保育の仕事をしたいためだけの仕事探しをサポートします
- 保育士資格保有者届出制度
保育士資格をお持ちの方の届出申請がスムーズです
- 保育人材相談窓口
保育の仕事をしている方の相談窓口があります

福岡県保育士・保育所支援センター
TEL: (092) 582-7955
福岡県保育士・保育所支援センター (ホームページ内)
https://www.hoiku-fukuoka.jp/

第55回全国保育士会研究大会(奈良大会)報告

与原保育園 主任 塩塚 美恵子

すべての子どもの育ちを支える保育の実現

令和4年11月24日Zoomを使用したオンラインによる研究大会が実施されました。

- はじめに、全国保育士会会長松村幹子氏から
- 1.全国保育士会の成り立ちと枠組み
 - 2.子どもの育ちと保育をめぐる状況と保育士会
 - 3.令和4年度の全国保育士会の取り組み
- についての基調報告がありました。

令和5年4月には「こども家庭庁」が設置され、本年6月には改正児童福祉法が成立し、保育を取り巻く環境が変化するなか、保育所・認定こども園や保育士・保育教諭等に対してこれまで以上に期待が高まっていること、今後、「地域共生社会」でSDGsの「誰一人取り残さない持続可能で多様性と包摂性のある社会」の実現に向けて他の専門機関との連携、子ども虐待や貧困等の問題が深刻化するなかでのその役割はますます重要になるなど、子どもの最善の利益の保障のために取り組む必要性を再認識しました。

次に、厚生労働省子ども家庭局保育課長本後健氏より、子ども・子育てをめぐる国の動向と課題の様々な説明があり、その中で、出欠等に関する周知報告がありました。

- ①子どもの欠席連絡等の出欠状況に関する情報について、保護者への速やかな確認及び職員間における情報共有を徹底すること
- ②登園時や散歩等の園外活動の前後等、場面の切り替わりにおける子どもの人数確認について、ダブルチェックの体制をとる等して徹底すること
- ③送迎バスを運行する場合においては、事故防止に努める観点から、
 - ・運転を担当する職員の他に子どもの対応ができる職員の同乗を求めることが望ましいこと
 - ・子どもの乗車時及び降車時に座席や人数の確認を実施し、その内容を職員間で共有すること

日々の出欠の確認を絶対に怠らない、〇〇だろうと一人で勝手な憶測で判断することのないよう気を付けていくことが、子どもの命を守ることに繋がります。また、これは一人ではできないことではなく、職員同士の連携・確認が不可欠であり、園全体で引き続き取り組まなければならないと強く思いました。

次に、「心の豊かさが本物の笑顔になる」アマデウス大西氏による記念講演がありました。お笑いトークとピアノ演奏を交えての講演は楽しく、あっという間の1時間でした。音楽の力で子どもたちに与えられるもの、大人の声か

けで子どもたちに与える影響力などの話があり、子どものできないことに注目するのではなく、出来ていること、頑張る過程を認めていくことが大切だと深く共感しました。

最後は各分科会に分かれて研究発表が行われました。私が参加したのは、第一分科会「子どもの発達と環境(3歳未満児)」で、「養護と教育」を一体的に提供する保育の特性を生かした「3歳未満児の子どもの発達保障」に関する研究発表がありました。

2つの研究発表があり、1つは「こころの育ちと言葉の関係性」のテーマでした。

1歳児の事例研究で、言葉の数は少なくとも、行為や遊びのイメージ、様々な子どもとの関わりを通して、子どもの気持ちを汲み取り代弁を行うことの重要性を再認識しました。

2つめは「子どもの発信力を育む保育のあり方」で2歳児の保育記録を分析考察し、保育を可視化し、子どもの理解を深めて保育に取り組まれていました。保育記録は「できた」「できない」だけの記録ではなく、成長過程を把握し子どもへの理解や気づきを深めるために重要であると改めて感じました。

3歳未満児の子どもの発達には月齢差や個人差があり、一人一人の子どもの発達の課題に十分に留意して保育を行うためにも、保育者が子どもを援助して、「自分でできた」というプロセスを作ってあげたり、子どもが身の周りのことなど自分でしようとする時は、少し時間がかかっても待ってあげて、子どもの「自分で」という気持ちを大切にしながら、達成感や経験をたくさん積み重ねてあげることが、発達に繋がるのではないかと思います。

子どもの持っている可能性を伸ばすために、言葉がけや関わり方を深く学ぶ機会となりました。今後も、保育者として専門性の向上のために、自己研鑽に努めていきます。今回研究大会に参加させて頂き、ありがとうございました。



未来への羅針盤 in 北九州 2022 ～つなごう人の輪 ウェルビーイングの実現を目指して～

令和4年11月21日(月)～22日(火)の2日間にわたり、北九州市にて第7回九州保育三団体青年部協議会研修会が開催されました。

この未曾有の時代にこそ、職員はもちろん、子どもたち、保護者、地域との「つながり」や「人の輪」が大切である事を今一度考えたいとの想いから、テーマは「未来への羅針盤 in 北九州 2022～つなごう人の輪ウェルビーイングの実現を目指して～」となりました。

1日目は開会式が行われた後、第1～第3分科会に分かれての研修となりました。

私が参加した第1分科会は「幼保事業者が押さえておくべきモンスターペアレント対応策3つのポイント」と題し、弁護士法人かなめ代表弁護士の畑山浩俊氏による講義が行われました。

園児の保護者や関係者が、園に対して過度な要求や不当な要求を突きつけ、園運営に支障が生じる問題が全国的に多発しているとのことでした。適切に対応し問題が広がらなかったケースや、対応の不手際で問題が複雑化したケース等、講師が担当した事例を織り交ぜながら、対応する際に意識すべき3つのポイントの説明がありました。

まず1つ目は「謝罪」であり、保護者に対して心配をかけたことへの謝罪がまずは重要とのことでした。「園や職員は悪くない」等の責任論を相手に押し付けると、話が進まずに大きな問題へと発展しやすい為、謝罪無しでクレーム収束は難しいことを理解した上で、相手を悪質クレーマーと断定せずにはまず謝罪が初動であると説明がありました。

謝罪＝賠償責任ではなく、謝罪には「法的責任」「道義的責任」「共感」があり、道義的責任と共感から出た謝罪が初動には重要であるとのことでした。

また相手を悪質クレーマーへとさせない為には信頼が不可欠であり、①職員からの積極的な挨拶、②保護者が好意を抱く、③良い印象を職員に持つ、④信頼を獲得する、といったサイクル構築の提案もありました。また、他人への信頼を抱くために合う回数は4回とされており、保護者からの信頼を獲得するためにこの回数以内に上記のサイクルを構築することが望ましいようです。

次に「対応時の実践ポイント」として、保護者からの要求に関して、早期の事態収束の為だけに保護者の言い分を飲むことは絶対すべきでないこと、職員個人



で対応するのではなく組織として対応し、原則2人以上のチームで対応に当たる等の詳細な説明に加えて、行政との連携や施設での対応窓口の明確化等のメリットについて説明がありました。

最後に「カスタマーハラスメント対応の仕組みと構築」として、契約書や重要事項説明書等の見直し、対応指針掲載による組織トップとしての意思表示と実践を行うことの重要性が説明されました。

園運営にあたって、どの施設でも少なからず保護者対応に苦慮している部分はあると思います。福祉分野をメインとして活動している弁護士による事例を交えた講義は得るものが多く、非常に実りある講義でした。

2日目は、つるの剛士氏を招き「つるの剛士流 子育て論」と題した記念講演が行われ、会場から寄せられた質問につるの氏が回答するスタイルで進められました。つるの氏が育児休業を取得した目的や子どもを持つ親としての子育て観、保育士資格取得の動機等、質問は多岐にわたり、講師と参加者の距離が非常に近くに感じられ、新鮮な記念講演であると感じました。

今研修会においては開催時期の延期を経て、今年度も新型コロナウイルス感染者数の爆発的増加の時期と重なり、開催か中止かで大変に悩まれたとお聞きしています。その様な状況下であっても、感染対策を万全にしたうえで、実り多い研修会を開催頂きました実行委員の皆様をはじめとした関係者の方々に深くお礼申し上げます。ありがとうございました。



保育現場のICT化を目指して 朝倉市保育業務ICT化検討委員会の取り組み

黄金川保育所 所長 中村美恵

はじめに

朝倉市は、福岡県中南部の筑後地域に位置し、9園の公立保育所（現在1園は休所）があります。どの園も緑豊かな自然環境に恵まれ、地域に根差した保育を目指していますが、統廃合や民営化の対象となっている園もあり、園児数の減少、災害対策など、それぞれの課題があります。しかし、「職員の人材確保と負担軽減」に関しては、全園が同じように問題を抱えているところです。

保育業務ICT化検討委員会の発足

保育業務には、園児と直接かかわること以外に、登降園管理、書類の記載、計画の立案、給食指示、おたよりの作成など多くの事務的業務があります。しかし、人員不足は慢性化しており、改善策も行き詰った状態です。そのような中で、令和3年7月に市の担当課（子ども未来課）から、負担軽減、労働時間の改善を図るためのICT化について提案がありました。しかし、ICT化することが業務軽減の根本的な解決にまでは至らないため、どのようにICTを活用すれば有効なのか、現場で働く保育者も含めた委員会を組織し、検討を進めることになりました。

委員会の取り組み

保育現場からは、「ICTとは？今必要な事業？私にできる？」など不安と疑問の声もありましたが、事務局を「子ども未来課」が担当し、各園1名ずつ、所長や主任、保育士など、立場や年齢が異なるメンバーで検討委員会を構成しました。

システム業者からの説明や、既に導入している事例動画を見る「勉強会」からスタートしましたが、具体的にどのくらい負担削減ができるのか、自園に置き換えて考えにくいこともあり、まずは現状把握のアンケートを行うことになりました。時間外や持ち帰りの業務、休憩時間や休暇の取得など、詳細を正直に回答しにくい点もありましたが、「結果を改善につなげよう。」という意識が芽生えました。また、アンケート結果は、新規事業の申請や予算要求など、保育現場におけるICT化の必要性を「事業」として訴える根拠にもなりました。

コロナ下での委員会

当初の計画では、令和5年6月からの全園導入を目

指し、定期的な委員会の開催をしながら、導入園の見学や、試験的な一部導入なども予定していましたが、新型コロナウイルス感染症対策のため、委員会の開催さえできない状況になりました。感染症対策に伴い、保育現場と同様に事務局も業務が増加し、導入時期の延期を検討することになりました。

その後、回数は減りましたが、令和4年10月から委員会を再開し、支援システム機能の検討（具体的にどのような機能が必要か）のためアンケートを行いました。登降園管理だけでも20項目以上の機能があり、慣れない用語だらけの170項目以上を一覧するだけでも苦労しました。最終的に、アンケートをもとに事務局に選別してもらうことになりましたが、委員だけでなく全職員が目を通すことで、ICT化を実感する機会になりました。

委員会が開催できない期間、新規事業申請や予算要求、情報システム担当課との調整など、導入に向けた全てを事務局に担ってもらいました。多くの制限や期限がある中、設備環境面での予算やセキュリティが最も厳しく、Wi-Fi（無線）ではなく有線使用を余儀なくされ、保育室や調理室へのPC設置を検討することになりました。

担当課との連携

今後、各園の現地調査や、納入業者の選定を行い、令和5年10月の導入に向けて、委員会を続けていく予定です。導入後も、操作に慣れるだけでなく、帳票様式の移行や保護者への説明および協力依頼など、戸惑うことも多いと思います。しかし、今まで継続してきた業務を見直し、改善するきっかけができるのではないかと考えます。

近年、各地でICTシステムの導入が進んでおり、「あの時の提案がなかったら、当市の保育現場は置き去りになっていたのではないかと感じています。園児や職員数の違いから、9園足並みを揃えてとはいかないかもしれませんが、今回の導入が基盤となり、将来の「働きやすい職場環境」につながってほしいと期待しています。

導入後の改善も、引き続き担当課と連携し、保育の質の向上や安定した人材確保ができるように進めたいと思います。

ぴかぴかの新園を
よろしくお願ひします！



森の保育園で生きる力を育む

社会福祉法人 稗田福祉会 かよいちよう保育園
園長 岡 裕美子



はじめに

稗田福祉会は、下関市に昭和49年に保育園、昭和62年に特別養護老人ホームを開設し、新たに令和2年12月1日、粕屋町にかよいちよう保育園を開設いたしました。

【保育目標】

- ・自ら学び行動できる力
- ・最後までやり通す力
- ・人を思いやる力

保育園で過ごす0歳から6歳の時期は心身ともに最も成長の著しい時期です。そして、この時期に子供の基本的な人格形成がなされると考えられています。

かよいちよう保育園では子供の伸びようとするいのちの力を信じ、自己教育力と社会力を伸ばしていきたいと考えています。この時期の子供たちは、自ら学ぶことを大きな喜びを持って行い、さまざまなことに挑戦したがり、夢中になると驚異的な集中力を発揮します。

つまり子供の自分で学ぶ力、自己教育力を引き出し伸ばすこと。と同時に集団で生活する上でのルールや思いやりの気持ちを保育園生活の中で自然と身につけてもらうことを目標にして保育に取り組んで参ります。

また、4歳5歳においては『三つの学び』のためのカリキュラムを組み、横々な分野への土台を作る目的で年齢別での活動を行なっています。

- 言葉の学び 聴く、話す、書く、読むの基本を育てる
読み聞かせ読書の時間、ひらがな、数字の書き取り
- 身体の学び 体操教室、身体バランスと脳バランスの育成
- 感性の学び 造形、音楽活動で表現力、創造力を育てる

【保育内容】

課内教室：体育教室・造形教室

課外教室：体育教室・英語教室・スイミング教室



column

幸せな保育士人生 46 年を振り返って ～楽しい子育ては幸福な思いへとつながる～

飯塚市 枝国保育園 園長 樋口 恵美

私が長年保育に携わってきた飯塚市は福岡県の中心地、かつて炭鉱で栄え、石炭王 伊藤伝右衛門邸に代表される遺産が多く残されています。近年は開発が進み、大型ショッピングモールが建設中など活気あふれる街に変わろうとしています。

さて、日々保育を行う中で「新型コロナウイルス感染症の終息はいつなのか？」と思いながらこの3年あまり翻弄され続けました。生活環境の変化は子どもたちの成長に少なからず影響があるのではないかと。私たちにできることは何なのかと自問自答する毎日です。

保育者としての責任の重さに思わずマイナス思考になることもあります。こういう時こそ子どもたちを温かい眼差しで見つめ、個々に応じた対応をしていく中で自然と出てくる笑顔に癒やされることができれば私たちも前向きになることができます。同時に保護者との信頼も深まることでしょう。

先日、何気に声を掛けた保護者から「先生、先日声を掛けて（話を聞いて）いただき嬉しかったです。これからも子育てを愉しみます」と言われ、ハッとしました。子どもたちは勿論、保護者や保育士など大人も含め誰もが振り向いて欲しいという思いがあるということに改めて気づかされたのです。地域社会の中で隣人や保護者同士の繋がりが少なく、精神的に余裕の無い状態で生活している様子を感じることがあります。だからこそ少しでも「心の寄りどころ」になれるよう努めて声掛けをし、悩みを聞くことも大切な支援であり、加えて園長・主任が保育士の思いを聞くことも最適な保育環境を実現するためには必要なことだと思います。

振り返ると四十数年前、私たちは「保母」と呼ばれ、地域の繋がりの中で今よりも子どもたちを中心とした交流が

【編集後記】

昨年は全国的に保育施設にて、痛ましい事故や許されない事件がニュースにて報道されました。一部報道では保護者や職員の不安を煽るようなものも散見されなんとも複雑な心境でした。しかしながら、今一度気を引き締める必要があるものの、我々は子ども達を第一に考え、今までどおり当たり前のことをしていれば何の不安も無いと職員に伝えました。

また、コロナも昨年末より第8波に突入しました。当園ではちょうど、おゆうぎ会の時期です。今年はインフルエンザの流行も重なり日々心配していますが、昨年よりも参加クラスを増やし2歳児から5歳児で開催とし準備に追われています。

最後に本年度より広報部会のメンバーとして活動させて頂きませんが、文章が苦手なもので……。会員の皆様にはご迷惑をおかけしますが宜しくお願い致します。

広報部会 齋藤



盛んだったように感じます。それから時が経ち平成15年の児童福祉法改正により「保育士」という国家資格を与えられることで、より専門性を求められることとなります。近年では業務省力化やICTの活用等合理化も求められ、若手の保育士に教えてもらうことも多くなり、仕事の効率も上がりました。一方で、様々な制約を感じ「これでいいのか？」と複雑な思いを抱えています。

昨年より保育現場での事故等、不適切な保育が各地で報道されています。その要因として保育士の負担が大きいことが指摘されています。仕事の効率が上がっても保育士の負担が減る訳ではありません。だからといって義務や効率に囚われるあまり保育の原点が曖昧になってはなりません。

保育とは本来、家庭・保育所・地域の信頼関係のもと成り立つものです。効率化や専門性ばかりを追求し、この関係を壊してしまわないようにすることが肝要です。

当園の基本理念には「心和む居場所」となることを掲げています。園児は勿論、保護者、保育士など関わる人全てにそう感じてもらいたいと日々精進しています。子どもたちの成長を喜び合うことこそが幸福であるのです。今後益々少子化は進むといわれていますが、そうなればなるほど我々保育士の社会的役割は増していきます。それに伴い新たに求められることも増えていくでしょう。でも専門的知識を蓄積することよりも大切なことがあるはずですよ。

一日一日を大切に笑顔で過ごせるよう心掛けながら次の一歩を踏み出す。これを繰り返しながら46年間という月日を歩んできました。子どもたちと過ごす時間には限りがあり、自分が老いていくスピードは年々増していきます。職員や周りの方に支えられていることで幸せを感じることができると感謝し、これからも保育に携わっていくことができると思います。

発行日 令和5年2月24日
発行者 万田 康
編集者 猿渡 保生
発行元 公益社団法人
福岡県保育協会
春日市原町3-1-7
TEL 092-582-7955
FAX 092-582-7956

園と園児のリスクに漏れなく備えていますか？

園経営には、さまざまなリスクが伴います。公益社団法人全国私立保育連盟指定代理店である(有)ゼンポでは、園経営はもちろんのこと、園児をとりまくリスクに関する各種保険を取り扱っております。

ほいくのほけん・ こどもえんのほけん

4月1日～1年間
(中途加入可能)

「園賠償責任保険(新型コロナウイルス等対応費用補償特約付帯)」「園児団体傷害保険(学校契約団体傷害保険特約付帯傷害保険)」など、園経営における従来のリスクに加えて新型コロナウイルス感染症にも対応する保険をご用意しております。

やくいんのほけん

8月1日～1年間
(中途加入可能)

社会福祉法人の役員の業務遂行に関する賠償リスクとレピュテーション(風評被害)リスクに加えて雇用関連トラブルによる法人への賠償リスクもオプションで対応する保険となります。

上記以外にも、「学童保育」などの保険も取り扱っております。

まずは**有限会社ゼンポ**まで
お気軽にご相談ください！

TEL **03-3865-3881**
FAX **03-3865-2806**

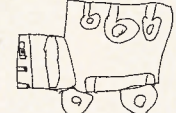
〈連絡先〉

公益社団法人全国私立保育連盟指定
東京海上日動火災保険株式会社代理店
有限会社ゼンポ
〒111-0051 東京都台東区蔵前4-11-10 全国保育会館内
TEL 03-3865-3881 FAX 03-3865-2806

〈引受保険会社〉

東京海上日動火災保険株式会社
担当課：公務第二部 文教公務室
TEL 03-3515-4134

このご案内は施設賠償責任保険・生産物賠償責任保険・学校契約団体傷害保険特約付帯傷害保険・会社役員賠償責任保険・レピュテーション費用保険(レピュテーション費用特約条項付費用・利益保険)・雇用関連賠償責任保険の概要についてご紹介したものです。保険の内容は本保険制度のパンフレットをご覧ください。詳細は契約者である公益社団法人全国私立保育連盟にお渡しする保険約款によりますが、ご不明点がありましたら、取扱代理店または保険会社までお問い合わせください。また、ご加入にあたっては、必ず「重要事項説明書」をよくお読みください。



連絡先



公益社団法人全国私立保育連盟指定 / 東京海上日動火災保険株式会社代理店

有限会社ゼンポ TEL **03-3865-3881**
FAX 03-3865-2806

〒111-0051 東京都台東区蔵前4-11-10 全国保育会館4階

子どもの育ちが見えれば、明日の保育がもっと豊かに！

全国私立保育連盟推奨(総代理店)

導入費用
無料

きっずノート

「きっずノート」は、文字だけでは伝えきれない園での豊かな活動、子どもたちが自ら学び・育つ姿を「見える化」するアプリです。

保育者の
業務
省力化

子どもの
学び・育ちの
見える化

緊急時の
連絡手段

正式利用お申込みの全施設

最大9ヵ月

利用料無料!

契約更新後も料金そのまま!

年間一括利用料6万円

利用しやすい価格に
なりました!

ひと月
あたり **5,000円** (税別)

※ただし、事業者利用規約の定めにより、将来において利用料金が変更になる可能性がございます。

詳しくはお問い合わせください。

<担当者:菅沼、佐藤>